道新聞　第3種郵便物認可

北見の「環境ダイゼン」社名を「環境大善」に

窪之内誠社長に聞く

消臭剤や土壌改良剤などを製造販売する「環境ダイゼン」（北見）は今月1日付で、社名を「環境大善」に変更した。同社は、牛の尿を善玉菌などに分解させたバイオ活性液を原料にする独創性をアピールし、販路を国内外に拡大。社名の変更には商品の価値をさらに高める「ブランディング」の狙いがある。窪之内誠社長(44)に、新たな社名に込めた思いや事業の展望を聞いた。（聞き手・樋口雄大）

新社名「環境大善」に込めた思いを語る窪之内誠社長

善玉菌で発酵し消臭剤

――社名がカタカナから漢字に変わりました。

「ダイゼンは先代（父の窪之内覚社長）が独立前に勤めていたホームセンターの店名から来ています。大工の大と、営繕の繕を組み合わせました。私たちの仕事は善玉菌による発酵から全てが始まる。そこで善玉菌の善という漢字を新たな社名に取り入れました」

――ロゴも作りました。

「善の字をモチーフにした『善玉菌の大善君』です。会社のアイコンとして包装紙や紙袋などいろいろな場面で使っていきます。善玉菌が活躍すれば世の中は良くなるはず。私たちの仕事は大善君が活躍しやすい環境を整えることです」

――なぜ今、社名を変えることにしたのですか。

「主力商品の消臭剤『きえ～る』や液体堆肥『土いきかえる』は、牛の尿を発酵させ環境に優しいエコな製品ですが、質の高さがあまり消費者に伝わってないと感じていました。選ばれるには宣伝だけでなく、社の理念や考えに興味を持ってもらう必要がある。そう考え、事業の根幹をなす善玉菌から着想し『発酵経営』を理念に掲げ、『環境にとって大きく善いことをする』という思いを社名に込めました」

商品価値の向上目指す

――発酵経営とは。

「微生物に学ぶ経営をするという意味です。発酵と腐敗は紙一重。善玉菌が活躍すれば発酵し、悪玉菌が働けば腐ります。これは人間社会も同じではないでしょうか。良い人が活躍できれば組織は活性化し、新たなイノベーションが生まれる。この循環を目指す考えが、発酵経営です」

――今後の事業展開やビジョンは。

「公害のもとになる牛の尿が環境に優しい消臭剤になるのは面白いし、北海道らしさがありますよね。こうした『ストーリー』をエコに関心がある消費者に伝わるように仕掛け、ブランディングを強化したいです。都市部の人の目にとまるように、シンプルなパッケージの商品もそろえました。売り上げが伸びれば、牛の尿を提供する酪農家の収入もアップします。研究開発への投資だけでなく、大学やベンチャー企業との連携を進めることで商品に一層磨きをかけ、地域に貢献していきます」